を除き他の二十五箇は火を落した爲内部の鎔鐵凝結し使用に堪へなくなつたといふと爲沙山氣の如くたがこれに就き南部副參事は意外の面持で語る「鎔鐵爐は燃料の投入を中止しても半箇月間は爐内の鎔鐵が凝固しなかつた例が外國にある併し平爐はさう長く熱を保つ事は出來まいが鎔鐵所では平爐内部の鎔鐵が凝結しない前に燃料を入れたから使用に堪へぬと云ふ事はない」と否認したしかし同工場の職工は平爐二十五箇は悉く凝固したものと堅く信じてゐる（八幡電話）

白仁長官 竊に歸任す

八日夜下關で急行車を降り 門司へ渡つて行方知らず

藤井出庶の爲滿京中に大罷業勃發し憂慮の裡に政府要人として日を送りつゝあつた白仁製鐵所長官は罷業解決後にあらざれば歸幡せぬと語つて居たが七日夜九時竊に新橋驛發の急行列車に投じ八日夜八時五十分下關驛着、中折帽眼深にオーバーの襟に顔を埋め人眼を避けつゝプラットホームより連絡船に移り門司へ渡つたが絶對秘密裡に歸幡せるものと見る門司に渡つてからの行方は尚不明である一方製鐵所にては同夜午後十時を過ぐるも中川次長、南部副參事は事務所樓上に在りて鳩首善後策を講じつゝあり、長官歸幡の報を齎せば南部副參事は「事實ですか若し事實ですれば中川次長を初め自分達が知らぬ筈はないのですが」と長官の歸幡を知らざるもの如く長官官舎を訪へば家人亦長官の歸任を知らぬけに怪訝なる面持を示した、知らず長官の慌しき歸任は事件の解決に近づけるを語るものか、將また事態の愈且重大となれるに鑑みたものか（八幡電話）

八幡市長を憤る職工

告示から問題

堀口八幡市長は罷業の形勢惡化せんとするを見て市民の賛同を得れ今回の職工人夫の要求は罷業又は怠業に依らず解決の策があつたに拘らず職工人夫等が輕擧妄動したものであるから市民は此事件に關して市長の旨を告示したので此事を知つた職工等は怠業狀態に陥れる中川次長が然して誠意ができない事件は拘束したが他の職工人夫等は大に憤り委員を選んで堀口市長に會見し罷業及怠業は漢籍變きたる最後の手段である市長が吾人の態度を輕擧妄動視するは如何なる理由か、又市長は他に解決策があつたと言へるは果して如何なる策なりやと嚴談し

塲合に依

っては一

萬六千の職工人夫に依つて行はせる八幡の市長が職工の生活狀態及今回の事件の經過を知悉せずして職工を侮辱せるの罪を糾彈すると氣圍いてゐる（八幡電話）

當局の嚴戒と 暗號

職工側の聯結

其筋の整戒は嚴重を極め職工人夫一萬六千の一擧手一投足悉く背後から看視の眼を光らせて居るが職工等は巧みなる手段に依りて常に幹部と連絡を保ち或る一派の如きは一定の掲示板に一筆で暗號を認め集合時刻や場所を周知せしめる方法を採つてゐるので當局折角の苦心も甚だしく其効力を減じてゐる觀がある（八幡電話）

料理屋

などは大繁盛

八幡市の昨今

同盟罷業に依つて八幡市中は種々な影響を受けてゐるが料理店の如き瓦斯の配給意の如くならざる爲め一見寂れて見えるが

商賣は反對 に好景氣

を呈して居る殊に客の如きも八幡が開かれて以來今回の如く多數の人が各方面より入込んで來たのは始めてゞある食事をする間もなく多忙であると、郵便局の如き罷業勃發と同時に全國各地の新聞社特派員が出張して來て通報に努めてゐる爲め電信電話は輻輳し八幡局

檢事總長等へ 「必親展」書が飛ぶ

事態は益々重大となる

八幡署に出張中なる福岡地方裁判所の安達檢事正は八日夕刻司法省法務局長大審院檢事總長外一箇所に宛て「必親展」の重要書類を發送したが這は事態益々重大となつたと語るものらしい（八幡電話）

では間に合はぬので 若松や門司 又は下關

までも出掛けて送話してゐる局員の談に依れば八日の如き二日前に大阪へ向けて申込んだ電話が通じないため取消した人もある位であると話してゐた（八幡電話）

東伏見宮御西下 佐世保に於ける

軍艦進水式に臨の途中七日午後御入洛あらせられた東伏見宮殿下は八日午前十時自動車で御姉君村雲尼公を御訪問久方振りにて御對語あり七時三十八分御西下になつた（京都電話）

八幡署で 假豫審

浅原勞友會長 以下審問中

福岡地方裁判所より出張した豫審判事は八日、八幡署樓上に假豫審を開廷し勞友會浅原健三氏以下六名の被告に對し目下訊問中である（八幡電話）